

I 型糖尿病を持つ子どもと家族に対する看護ケアの評価

富田楓也、松井由美子、坪川麻樹子
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】 思春期にある子どもの I 型糖尿病患者は血糖コントロールが乱れやすいと言われている。また、思春期の過ごし方はその子どもの人生に強く影響するといわれており、I 型糖尿病を持つ子どもにとって、病気との向き合い方やセルフケアの在り方は重要だと思われる。本研究では小児看護学実習で受け持った I 型糖尿病を持つ子どもと家族に対して自身が行ったどのようなケアが有効であったかを対象を思春期に絞り、I 型糖尿病患児と家族に対しての看護ケアに関する文献を用いて考察する。

【方法】 先行研究と実際に患児に実施した看護ケアの結果を用いて比較検討し考察する。文献は、医中誌、CiNii より、「I 型糖尿病」、「家族支援」、「セルフケア」、「思春期」をキーワードに、検索を行った。

【結果】 「I 型糖尿病、家族支援」に関しては 19 件、「I 型糖尿病、セルフケア」は 1392 件、「I 型糖尿病、思春期」は 125 件の文献が抽出された。その中で「思春期の I 型糖尿病患児における看護ケア」について述べられている 8 件の文献を抽出し、表 1 に示した。

【考察】 今回の小児看護学実習では患児がインスリンの計算を上手く行うことができるか、自己血糖測定やインスリン自己注射を退院後の療養生活に取り入れることができるかという不安があった。それに対して看護計画の中で、「患児と学生が食前投与インスリンの計算を行い食後の血糖値を確認し上手く行っていたと伝えること」や、「パンフレットを作成し退院後の療養生活の指導を実施する事」を実施計画としてあげ、実際に行うことができた。「インスリン計算が上手く行っていた」と言葉で伝えることや、インスリン計算に対しての成功体験を患児に与えることは不安の軽減にもつながり、自己効力感を高めるケアとして表 1 の 7) に示されているように有効なケアが行えていたと考えられる。しかし、I 型糖尿病の看護ケアでは表 1 の 1) ～8) に示した内容が重要だと述べられているが 7) 以外実施することができなかった。1) では医師の説明を受けた後に患児・家族が I 型糖尿病について理解できているのか確認すること、栄養士との連携を図り退院後の食事についてどのようにしていけばよいかを確認すること、両親が抱えている不安に対してのケアを行うことが必要だったと考えられる。4) にある内容はキャンプが悩みの共有や情報交換、患児同士の交流が行える有効な場であるということで、入院中に紹介し参加を促すことも看護師が行うケアの一つとして必要であったと考えられる。6) ではケアを行っていく際にネガティブな発言がみられていないかを観察していく必要があると考える。8) は学校側との連携を図り患児・家族を含めたカンファレンスで学校での療養行動を実施しやすいように環境調整をすることも必要であると考えることができた。

表 1 文献の内容

1)	親子の認識の相違を減少させることは疾患管理行動や血糖コントロールの改善に有効であった。
2)	患児が自分の病気や療養行動を知られたくないと感じる背景には誤解や偏見、特別扱いなどがあるため学校側と周囲の同級生に I 型糖尿病に関する知識が得られるよう医療者側からの指導が必要である。
3)	学校での心理的負担を軽減し療養行動の困難感を少なくするためには発症早期に子どもの希望や意思を尊重し年齢に応じた病気の説明や病気の公表することが学校での療養行動には重要である。
4)	キャンプに参加することにより同じ病気の仲間がいることは病気への思いや自己管理を確立することに影響を与えていた。
5)	10 代発症では否定的な感情が強いときであっても糖尿病の基本的な療養行動の取得は短期間でも可能であったが日常生活に療養行動を取り入れるためには多様なサポートが必要としていた。
6)	自己管理行動を実施することに対してネガティブな予測をしている患者においては、適切に自己管理行動が行えていない可能性がある。
7)	QOL を高める療養指導として自己効力感を高めること、食事に関する悩みを軽減すること、周囲からの適切なサポートを得られるようにすること。
8)	周囲のサポート体制が整っていることまた同じ仲間がいることは I 型糖尿病患者にとって不可欠なものであり病気への思いや自己管理を確立することは大きな影響を与えている

【結論】

1. 患児の不安に対するケアは自己効力感を高めることにつながりセルフケアを促すケアとして有効である。
2. セルフケア確立するには学校との連携や糖尿病キャンプなどの周囲のサポート体制が整っていることが重要である。
3. 家族は血糖コントロールが行うことができるか心配ということが挙げられているため家族が抱えている不安に対してケアを行う必要がある。

【参考文献】

- 1) 中村伸枝,金丸友,出野慶子ら: 1 型糖尿病を持つ 10 代の小児/青年の糖尿病セルフケアの枠組みの構築: 診断時からの体験の積み重ねに焦点を当てて 千葉看護学会会誌 20 (2) 1-10 2015.
- 2) 関口真有,坂野雄二,高垣耕企ら: 児童青年期の 1 型糖尿病 1 型糖尿病患者の血糖コントロールに影響を与える心理的要因の検討 心身医学 57(10)1046-1055 2017.
- 3) 松本宙,堀田法子: 思春期の 1 型糖尿病患児の QOL に対する身体・心理社会的要因に関する研究 小児保健研究 76(5)404-410 2017.
- 4) 藏重麻美,藤崎彩花,牧野祐美子ら: 1 型糖尿病患者の自己管理に関する検討: 思春期の過ごし方がその後の自己管理に与える影響について 山口県立大学学術情報 10 129-138 2017.

本研究は関連する利益相反はありません。